

傳染病豫防法心得書



特



始



特106
537

傳染病豫防法心得書

凡ソ傳染病ハ其種類多シト雖モ流行性傳染病ノ一旦萌動シテ其蔓延ノ熾ナルニ至テハ救療ノ法モ治ク及ヒ難ク終ニ其猖獗ヲ縱ニシ慘酷ヲ極ムルニ至ル然ルニ豫防法アリテ之ヲ守ル嚴ナルルハ其病害ヲ未熾ニ防遏スヘシ加之消毒法アリテ之ヲ行フ密ナルルハ各種ノ病毒ヲ消滅スルヲ得ヘシ消毒法ハ即チ豫防法ノ一種ニシテ殊ニ其効驗確實ナルモノナリ目今本邦流行傳染病中最モ豫防注意ヲ要スヘキハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埜利亞、發疹窒扶私、痘瘡ノ六病トス而テ各種ノ病症ニ從ヒ豫防ノ法モ亦其趣ヲ異ニスト雖モ其要領ハ之ヲ約スルニ四項ニ出テス其一ハ病毒ノ萌動及ヒ蔓延ノ因ヲ除却スルニアリ即チ清潔法

其二ハ各人體中有スル所ノ感受性ナカラシムルニアリ即チ攝生法 其三ハ
病毒傳播ノ媒介ヲ隔離スルニアリ即チ隔離法 其四ハ傳染病毒ヲ消滅スル
ニアリ即チ消毒法 右ノ四項ニ依リ豫防ノ事ヲ施サ、ルヘカラス故ニ其大
意ヲ示ス、左ノ如シ

清潔法大意

流行性傳染病毒ノ眞性ハ確知シ難シト雖モ病理家ノ論斷ニ據ルニ
微ノ有機物アリテ外方ヨリ人體ニ竄入シ以テ其病ヲ發スルモノアル
カ如シ蓋シ此毒物ハ多ク地中及ヒ水中ニ在テ萌動シ尋テ氣中ニ混シ
然ル後人體ニ入ルヲ得ルモノトス故ニ其病ニ罹ル者ノ排泄物地中若
クハ水中ニ滲入スルハ即チ其毒ヲ散漫シ其地方ニ於テ衆人一齊ニ
同一ノ病ヲ發スル、理ニ於テ疑フヘカラサルナリ

此有機性病毒ハ地中或ハ水中氣中ニ生殖ヲナスニ必ス多少ノ助養物
ナカルヘカラス而シテ其助養物タルハ凡百ノ有機物體ノ腐敗ニ向ハ
ントスル者之カ發生ヲ助ル者ニ似タリ夫ノ魚市屠場等不潔ノ地及ヒ
糞屎塵芥ノ堆積セル地ノ如キハ其腐敗物地中及ヒ水中ニ滲透シ又此
ヨリ蒸發スルモノ大氣中ニ混入スルヲ以テ病毒ノ助養物甚々多クシ
テ忽チ蕃殖ノ速ナルヲ致ス故ニ土地ノ不潔ハ傳染病ヲ蔓延セシムル
ノ媒介タリ是ヲ以テ其病發生スルハ必ス家屋ヲ清潔ニシ溝渠芥溜
厠園等ノ汚物ヲ掃除セサルヘカラス是清潔法ヲ要スル所以ナリ

攝生法大意

凡ソ人強健ナルハ病毒ノ侵襲ヲ拒クヘキノ機能ヲ有スト雖モ過度
ニ勞動シ及ヒ飲食ノ不良或ハ不足等ヲ以テ身體之カ爲メニ衰弱スル

四
此ハ病毒ノ侵襲ヲ受クルト最モ甚シトス彼ノ發疹室扶私ノ飢饉軍役ノ際ニ乘シ其猖獗ヲ逞フシ又平生飲食不節或ハ不良ニシテ腸胃之カ爲メニ些少ノ損害アル此ハ虎列刺ノ侵襲ヲ受ルカ如キ等ヲ以テ証スヘシ其餘精神非常ノ感動及ヒ感冒等モ亦能ク病毒ヲ招クノ媒介トナルモノナリ故ニ流行ノ際ニ當テハ殊ニ攝生ノ法ヲ嚴守シ病毒侵入ノ地ナカラシムルヲ專要トス若シ人々普ク此豫防法ノ要訣ヲ守リ得ルニ至ラハ全ク傳染病ヲシテ流行蔓延ノ甚シキニ至ラシメサルヘシ是攝生法ヲ要スル所以ナリ

隔離法大意

傳染病毒ハ啻ニ地中若クハ水中ニ舍リテ傳播スルノミナラス患者ノ排泄物呼氣蒸發氣等ヨリ直ニ感染スルコトアリ故ニ病體死體其排泄物

等ハ速ニ之ヲ隔離シテ觸接ノ憂ナカラシムヘシ隔離法トハ患者ヲ別室ニ移シ門戸ニ病名票ヲ貼附シテ外人ニ表示シ或ハ之ヲ避病院ニ送致シ要用アル人ノ外務メテ交通ヲ絶ツ等ノ事是レナリ殊ニ其恐ルヘキ傳染病ニ於テハ患者ニ接近シタル看護人等モ亦他ノ健康人ト隔離セサルヲ得ス苟モ能ク其法ヲ守リ病毒ニ遠サカルコトヲ得ハ必ス傳染ノ蔓延ヲ致サルヘシ是隔離法ヲ要スル所以ナリ

消毒法大意

凡ソ傳染病毒ハ其性分極メテ么微ニシテ見ルヘカラスト雖モ傳送物中ニ混入シテ人體ニ達シ其病症ヲ發現スルモノトス此傳送物ヲ滅スル此ハ即チ病毒モ亦消盡ス故ニ烈火ヲ用ヒ之ヲ燒盡スルハ消毒ノ最良トス然レモ其燒棄ニ付シ難キモノハ或ハ藥劑ヲ用ヒテ薰蒸若クハ

灌注シ或ハ之ヲ洗滌シ以テ其病毒傳染ノ力ヲ撲滅スルヲ得ヘシ然ラサレハ其病毒散蔓シテ終ニ消滅スルコトナカラシ故ニ病毒萌動ノ後ニアリテハ消毒ヲ以テ豫防法中ノ最モ緊要ナルモノトス

消毒法ヲ施スニ當テ其病性ト其施スヘキ物トニヨリ其科ヲ同クセス故ニ之ヲ分チ第一患者及ヒ看護人等消毒法、第二死體及ヒ排泄物等消毒法、第三衣服臥具等消毒法、第四家屋船舶等消毒法、第五什具運搬器等消毒法、第六廁圍溝渠等消毒法トス但實布埵利亞、發疹室扶私、痘瘡ノ三病ハ第六ノ消毒法ヲ行フノ限ニアラス

凡ソ病毒ノ最モ含藏シ易キモノ即チ毛布、綿布、綿絮、疊、蓆、敷物ノ如キ氣孔鬆疎ナルモノト居室及ヒ室内ノ諸器具ノ如キハ其病毒浸染ノ深淺ニヨリ消毒法ヲ行フヘキモノトス

右ニ載タル薰蒸及ヒ洗滌ノ外其燒却ヲ憚ル品物ニシテ浸染セル病毒ノ萌生機能ヲ消滅セシメント欲スルハ熱氣消毒竈ナルモノヲ用ヒテ華氏二百二十度ヨリ二百五十度ニ至ルノ熱氣ヲ浴ク四方ヨリ通セシメ以テ之ヲ殲滅スル法アリ然レモ其構造宏大ニシテ各地ニ設ケ難キヲ以テ茲ニ詳記セス且ツ大氣日光ノ如キモ自然消毒ノ功アルモノニシテ善ク微隙ニ達スト雖モ但タ其力藥品ニ比スレハ甚タ弱キヲ以テ多少時日ヲ經サレハ其効ヲ奏シ難シトス

消毒藥劑ハ其品類頗ル多ク且ツ其性質功能モ亦同一ナラス故ニ其功能ヲ類別シテ第一號ヨリ第十二號ニ至ル以テ各病消毒法ノ條ト相照シテ之ヲ用フルニ便ニス其功用ノ如キハ化學作用ニ涉ルヲ以テ之ヲ略ス

○消毒藥

(第一) 濃厚石炭酸水

結晶石炭酸四分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ
但石炭酸一分ニ虞利斯林又ハ亞爾箇保兒二分ヲ和シテ能ク溶
解シ後チ本量ノ水ヲ加フヘシ

(第二) 稀薄石炭酸水

結晶石炭酸二分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ
但溶解法前ニ同シ

(第三) 石炭酸蒸氣

結晶石炭酸或ハ之ニ二倍ノ亞的兒ヲ加ヘタルモノヲ皿ニ入レ微火ニ上セ蒸發セシ
メ或ハ石炭酸一分ニ留水二十分ヲ和シ布片ニ蘸シ室内ニ懸ケ置
キ蒸發セシムヘシ

(第四) 石炭酸末

粗製石炭酸ヲ以テ砂、灰、木炭末、鋸屑等ヲ濕濡セシメタルモノ
但粗製石炭酸ハ四十分ヨリ六十分ノヲエニール酸即チ結晶石炭酸ヲ
含ミ稍ク色ヲ帶ヒタル流動石炭酸ナリ

以下消毒同功アルモノニシテ通常用ヒサル品

サリシル酸 三百倍ノ水ニ溶解ス

テール油

石炭酸石灰 石灰百分石炭酸三分

(第五) 硫酸鐵合劑

綠礬三百匁ヲ常水一斗ニ和シ粗製石炭酸百匁ヲ加ヘタルモノ
但此合劑ハ久ク貯フヘカラス用ニ臨ミテ調製スヘシ

(第六) 硫酸硫酸鐵合劑

硫酸五分硫酸鐵六分水八十九分ヲ和シタルモノ

以下消毒同功アルモノニシテ通常用ヒサル品

鹽化亞鉛 八倍ノ水ニ溶解セルモノ

明礬

粗製明礬ノ過量ヲ水中ニ投シ能ク攪拌シテ後其上清ヲ取ル

コロール明礬 四倍ノ水ニ溶解ス

皓礬 百二十倍ノ水ニ溶解ス

(第七) 木炭 木炭二分生石灰二十分

(第八) 石灰

其他木灰、鋸屑、土等ハ又多少收結ノ功アルモノトス

(第九) 亞硫酸瓦斯

硫黃ヲ燒テ瓦斯ヲ發生セシム其法ハ疊敷ノ室ニ硫黃大約三百匁

(木炭末大約十匁ヲ加フルキハ更ニ宜シ)ヲ要ス但一時ニ火焰ノ昇

騰スル恐アルヲ以テ二三ノ火鉢ニ分配シ熾炭ヲ之ニ點シテ徐々

ニ焚燒セシムヘシ

但多數ノ物品ヲ消毒スルニハ密閉シタル室土藏類ニ索ヲ張り消

毒スヘキ衣服等ヲ掛ケ或ハ竹架ヲ設ケテ之ヲ排列シ本量ノ硫

黃ヲ薰スヘシ又人々各自ノ衣服等ヲ消毒スルニハ一握ノ粗製

硫黃ヲ火鉢ニ入レ火ヲ點シ伏籠ノ類ヲ覆ヒ之ニ衣服ヲ被ラセ

薰蒸スヘシ

(第十) 亞硫酸溶液

(甲)強百分ノ十ヲ含ムモノ

(乙)弱百分ノ五ヲ含ムモノ

但製法ハ畧ス

(第十一) 過滿俺酸加里溶液 百倍ノ水ニ溶解ス

(第十二) コロール瓦斯

十分ノ食鹽ヲ五分ノ褐石末ニ密和シテ磁皿上ニ置キ十分ノ硫酸ヲ十分ノ水ニ混和シタルモノヲ注キテ之ヲ發生セシム

以下消毒同功アルモノニシテ通常用ヒサル品

亞硝酸瓦斯

磁皿ニ銅屑ヲ盛り置キ硝酸ニ少許ノ水ヲ加ヘテ稀釋シ徐々ニ之ヲ注キテ瓦斯ヲ發生セシム

コロール石灰溶液

コロール石灰一分ヲ水百分ニ溶解ス

硝酸

磁皿ニ盛り微火ニ上セ蒸發セシム

○

以下六病各四項ノ區別ニ因リ豫防法實施ノ事ヲ類別開示ス而テ其手續ハ各項目カラ連帶シテ唇齒相保ツモノトス故ニ一事ニシテ其項ヲ同クセサルモノアリ例ヘハ虎列刺病ヲ豫防スルニ先ツ廁圍ノ掃除ヲ要スルハ清潔法ニ屬シ其患者ヲ尋常ノ廁ニ上ラシメス吐瀉物ヲ遠隔ノ地ニ搬運セシムルハ隔離法ニ屬シ其之ヲ運搬セシムル前ニ消毒ヲ行フハ消毒法ニ屬ス其事ハ一途ニシテ前半ハ隔離法中

ニ載セ後半ハ消毒法中ニ載スルカ如シ此心得書ニヨリ實施スル者
宜ク相對照シテ其順序ヲ誤ルコ勿レ

虎列刺

虎列刺ハ特異ノ流行性傳染病ニシテ其病毒ハ病者ノ吐瀉物中ニアリ
然シテ其吐瀉物ノ泡釀ニ向ハントスル時最モ傳播ノ媒介ヲナスコ甚
シトス故ニ此病毒一回不潔汚穢ノ地中水中ニ入ルキハ更ニ其蕃殖ノ
カヲ加ヘ動モスレハ飲料水ニ混シ遂ニ人體中ニ入りテ發生ス其症タ
ル暴カニ吐瀉シ生力忽チ沈衰シテ而シテ斃ル傳染病中最モ急劇ナル
モノト謂フヘシ印度地方ニ於テハ毎歲發動シテ地方病トナルト雖モ
人民ノ交通ニヨリ四方ニ蔓延シ到ル所或ハ三四年間流行シ或ハ全ク
其痕跡ヲ絶タスシテ散發スルコアリ總テ此病毒ハ夏月温熱ノ候ニ當
リ其發動ヲ見ルモノトス眞症及ヒ類似症ノ二種アリト雖モ俱ニ傳染
スルモノナリ故ニ其豫防ニ至テハ同様ノ注意ヲ要スヘシ

第一項 清潔法

第一條 虎列刺病ノ吐瀉物ハ一滴ダモ汚穢ノ地ニ滲入セシムヘカラ
ス若シ滲入スルキハ其泡釀力ヲ助ケ忽チ蕃滋増殖スルモノナリ故
ニ土地ヲシテ不潔ナラシムヘキ芥溜、下水、廁圍、魚市、屠場等ハ常ニ
之ヲ掃除スヘシ其掃除スル毎ニ防臭藥即チコロール石灰、明礬強溶
液、テール油等ヲ適宜ニ撒注スルヲ良トス

第二條 虎列刺病毒ハ容易ニ水土ニ滲入シテ傳播スルカ故ニ常ニ飲
料水ニ注意ヲ加ヘ井戸側及ヒ敷石若クハ敷板ヲ堅牢緻密ニシテ傍
地水潦ノ滲透ヲ防クヘシ其他飲料ニ供スル河水及ヒ水道ノ源ハ汚
穢物ノ流入ヲ防クヘシ

第三條 虎列刺ノ病毒ハ排泄物ニヨリ傳播スルヲ以テ糞壺若クハ桶

ヲ堅牢ニスヘシ且ツ常ニ注意シ糞尿ヲ汲取リテ之ヲ充滿セシムヘ
カラス殊ニ衆人群集スル所ノ廁圍又井水若クハ水道近傍ノ廁圍ノ
如キハ最モ注意ヲ加フヘシ

第四條 糞壺若クハ桶等ニ罅隙アルキハ糞汁之ヨリ滲漏シテ忽チ病
毒ヲ地中ニ滋蔓セシム此ノ如キモノハ消毒藥ヲ施スモ其功ヲ奏ス
ル能ハス故ニ豫メ壺桶ヲ點檢シ罅隙アルモノハ之ヲ改良スヘシ
第五條 芥溜ハ雨水滲入スルニヨリ其汚穢ヲ廣ク地中ニ浸漫セシム
ルヲ以テ木箱或ハ鐵葉箱等ヲ以テ其貯器トナシ板蓋等ヲ設ケ雨水
ヲ禦キ且ツ塵芥ヲ堆積セシムヘカラス

第六條 下水溝渠ハ石若クハ堅質ノ木材ヲ用テ有底ノ放水樋ヲ設ケ
遠隔ノ地ニ流注セシメ汚水ノ地底ニ滲入スルヲ防クヘシ其樋上ハ

蓋ヲ以テ密閉スヘシ若シ其接合密ナラサレハ却テ其間ニ腐敗氣ヲ
停蓄スルカ故ニ此ノ如キモノハ寧ロ上面ヲ開放シテ大氣ニ曝スヲ
以テ愈レリトス

但塵芥ハ必ス溝渠ニ投棄セシムヘカラス

第七條 溝渠ハ注意シテ塵芥ヲ除キ淤泥ヲ浚フヘシ且ツ其泥芥ハ溝
側ニ留置カスシテ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ然レ炎熱ノ候ニ當テ
日中ニ泥芥ヲ攪動スレハ惡臭ヲ發シテ空氣ヲ汚濁スルノ恐アルニ
ヨリ必ス他ノ時候ニ於テ之ヲ浚除スヘシ

第八條 魚市屠場ニ於テハ其流出スル所ノ污水地中ニ滲入スルノ恐
アルヲ以テ第六條ニ同シキ放水樋ヲ設ケ流注セシムヘシ且屠屑腥
汁ヲ培料ニ供スルカ爲メニ久ク貯積スヘカラス必ス有蓋ノ箱若ク

ハ桶ニ入レ置キ速ニ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ其他牛馬ノ厩舎及
ヒ羊豚、雞鶩ノ畜場等モ亦此旨意ヲ以テ掃除スヘシ

第九條 人家稠密ノ場所ニ於テハ培料ノ置場ヲ設クヘカラス若シ止
ムヲ得スシテ設クル所ハ久シク堆積セシムヘカラス前條ノ旨意ヲ
以テ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ其汚汁滲入スルモノハ更ニ新土ヲ
以テ之ヲ覆フヘシ

但村落廣濶ノ地ニ於テハ必スシモ之ヲ要セス

第十條 學校、囚獄、製造所、旅店、劇場等ハ流行ノ際更ニ清潔法ニ注意
シ又避病院ニハ掃除專務ノ人夫ヲ設ケ殊ニ注意ヲ加フヘシ

第二項 攝生法

第十一條 虎列刺病ハ各人皆之ニ感スルノ素因アルニ似タリト雖モ

就中不攝生ノ人之ニ感スル最多シトス故ニ流行ノ際ハ殊ニ飲食ヲ
慎ミ其他不攝生ノ事ヲ戒ムルヲ以テ至要トス

第十二條 飲料水ハ必ス無色無味無臭ノモノヲ撰ヒテ之ヲ用フヘシ
若シ止ムヲ得ス其稍不良ノ疑アルモノヲ用フルルハ之ヲ濾過スヘ
シ然レモ煮沸ノ後之ヲ用フルノ最良ナルニ如カス蓋シ病毒ハ玄微
ニシテ濾過力ヲ以テ盡ク之ヲ除キ去ルヘカラスト雖モ之ヲ煮沸ス
ルルハ其毒分ヲ全ク殲滅スルノ効アリトス

第十三條 氷及ヒ冷水ハ縱令其質不良ナラサルモ之ヲ過度ニ飲用ス
ルルハ之カ爲メニ下利ヲ發スルモノナリ故ニ流行ノ際ハ過量ノ飲
用ヲ戒ムヘシ但不良ナリト認ムルモノハ決シテ之ヲ用フヘカラスト
第十四條 酒ノ清醇ナルモノハ之ヲ適度ニ用フレハ害ナシト雖モ暴

飲或ハ酸敗セルモノヲ用フレハ腸胃ヲ害シ或ハ下利ヲ發スルモノ
ナレハ流行ノ際ハ必ス其品種ヲ擇ヒ務テ飲量ヲ節減スルヲ良ト
ス

第十五條 食物ハ新鮮ノ肉類消化シ易キ蔬菜ヲ用ヒ平生ノ慣用ヲ改
メサルヲ良トス但良好ノ食物ト雖モ之ヲ過食スレハ亦腸胃ヲ害シ
此病ニ感シ易キカ故ニ流行ノ際ハ務テ適度ニ食シ不消化物ヲ避ケ
殊ニ不熟ノ果實ヲ食フヘカラスト

第十六條 雨濕或ハ夜氣ニ冒觸シ或ハ過度勞役等皆此病ニ感シ易キ
ヲ以テ流行ノ際ニハ殊ニ之ヲ慎ムヘシ

第十七條 流行ノ際ニ當テハ感冒下利ヲ豫防センカ爲メ紋羽木綿等
ニテ小腹ヲ卷キ務テ適度ノ温暖ニ其身ヲ保持スルヲ良トス

第十八條 流行ノ際能ク此攝生法ヲ守リ腸胃健全ナルハ些少ノ病毒ヲ受クルモ猶ホ其病害ヲ免ル、コナシトセス看護人及ヒ汚穢物死體等ニ直接スルモノ、如キハ尤モ之ニ注意セサルヘカラス

第十九條 凡ソ豫防ハ平日攝生ノ謹嚴ナルヲ至要トス世間往々豫防藥ト稱スル方劑アリト雖モ多クハ無稽ノ考案ニ出テ之ヲ服用スルモ功ナキモノ多シトス

第三項 隔離法

第二十條 虎列刺病ハ患者ニ直接スルモ必スシモ感染スルノ理ナシト雖モ其吐瀉物ニ汚レタル患者ニ接シ又ハ其汚染セル物品等ニ觸ル、キハ其媒介ニ因リ病毒ヲ傳フ故ニ患者ト健者トヲ隔離スルヲ以テ豫防ノ要法トス

第二十一條 虎列刺病ハ眞症ト類似トヲ論セス醫師診斷シタルハ直チニ其家ノ門戶ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第二十二條 患者ノ吐瀉物ハ之ヲ金屬製或ハ陶製ノ漱盤便器等ニ承ケ木製ノ器ハ其毒滲浸ノ恐アリトス 毎回消毒法ヲ施シ壺或ハ桶ニ入レ戶外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬夫ニ付シ人家遠隔ノ地ニ搬送セシメ溝渠、芥溜田圃等ニ投棄スヘカラス且ツ患者ノ入りタル厠圖ハ決シテ他人ヲシテ入ラシムヘカラス又初發嘔吐セシ地面等ノ處置ハ第八十一條消毒法ニ依ルヘシ

但吐瀉物等ヲ運搬スルキ日中ハ虎列刺吐瀉物ト表記アル號旗ヲ

夜中ハ之ニ換ルニ提燈ヲ以テスヘシ

第二十三條 患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成タケ接近スヘカラス又止ムヲ得サル事故アルノ外他人ト交通ヲ絶ツヘシ

但家人ニ要用アリテ來訪スル人アルハ成タケ戶外ニ於テ之ト應接シ屋内ニ入ラシムヘカラス此時ニ於テハ家人及ヒ來訪人ニ消毒法ヲ行フヲ要セス

第二十四條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ其他要用アル者ノ外老幼ハ成タケ早ク他家ニ避退セシムヘシ

但看護人ハ成タケ其人ヲ更換セサルヲ良トス

第二十五條 病室内ニハ不用ノ器具ヲ置クヘカラス

第二十六條 患者若シ死亡スルハ成タケ其屍傍ニ接近シ又ハ死體

ニ沐浴セシムル等ノヲセサルヲ良トス

第二十七條 患者治癒若クハ死亡シ病室ニ消毒法ヲ行ヒシ後ハ家人其室内ニ起臥スルモ妨ケナシト雖モ若シ之ヲ用ヒサルモ日用ニ差支ナキ家ニ於テハ數日間空室ノマ、窓戸ヲ開放シ大氣ヲ流通セシムヘシ

第二十八條 西洋形船舶航海中ニテ發病者アルハ其室ヲ異ニスヘシ或ハ之ヲ艦ノ方ニ移スモ可ナリ其看護人ノ外交通ヲ絶ツヲ猶ホ人家ニ於ルカ如クスヘシ

第二十九條 船舶内ノ病室ニハ看護人ヲ定メテ吐瀉物ヲ承クルヲ第一
二十二條ノ如クシ航海中ハ毎回海中ニ投棄スヘシ尤モ港灣河湖等ニ於テハ之ヲ投棄スヘカラス必ス最寄ノ地方ニ著シ其地警察官吏

或ハ衛生委員ノ指圖ヲ受クヘシ

第三十條 船舶ヨリ患者若クハ死者ノ届ケアルキハ警察官吏衛生委員ニ於テ検査ノ上患者ハ之ヲ隔離シ死者及ヒ汚穢物ハ消毒法ヲ行ヒ第五十四條ヨリ第五十八條マテニ依リ處置スヘシ

第三十一條 製造所、會社、學校、旅店等ニ在テ發病シ引取人ナキ者並ニ狹隘不潔ノ地ニ雜居スル者等ニシテ看護消毒法行届カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キ所ハ之ヲ避病院ニ送ルヘシ若シ避病院アラサル所ハ適當ノ空屋ニ移シテ之ヲ隔離スヘシ

第三十二條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ運搬ニ便ナル地ヲ撰フヘシ然レモ井泉河流ノ近傍或ハ往來多キ路傍等ニ設クヘカラス又監獄、墓地、火葬場等ノ跡ハ用ヒサルヲ良トス

第三十三條 避病院ヲ新ニ構造スル所ハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其牀ヲ高クシ窓戸ヲ濶大ニシ且ツ板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便ニスヘシ但板葺、苔等ハ其一時ノ便ニ任シテ可ナリ

第三十四條 避病院ノ廣狹ハ大約人口千人ニ患者一人ノ割合ヲ以テシ例ヘハ人口六千人ノ町村ナレハ患者六人分ニシテ每人二坪ト見積リ十二坪ノ病室ヲ要スルノ類ナリ尤モ流行ノ勢ニ因リテハ建坪ヲ増加スルヲ得ルノ餘地ヲ豫メ計畫シ置クヘシ

第三十五條 避病院ノ病室ハ重症輕症及ヒ快復期ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令ヒ患者輻湊ストモ一坪ニ一人ノ割合ヨリ狭クスヘカラス

但此他醫師詰所、事務所、看護人休息所、等便宜ニ之ヲ設クヘシ

第三十六條 避病院ニハ簡易ノ薰蒸室ヲ設クヘシ其構造ハ凡ソ一二坪許ノ小室ニシテ薰蒸氣ノ漏散セサル様密閉シ得ヘカラシメ其内ニ竿ヲ架シ或ハ繩ヲ張り衣服等ヲ掛ルニ便ニス其小ナルモノハ尋常ノ戸棚等ヲ以テ之ニ當ツヘシ

第三十七條 避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ見舞人看護人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ

第三十八條 避病院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルハ直チニ此ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ弔者ヲ容ル、カ爲メ其餘地ヲ設クヘシ

第三十九條 人家稀疏ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ設クルヲ要セス若シ相當ノ空屋等アラハ假リニ之ヲ用フヘシ

第四十條 普通病院ニハ決シテ虎列刺患者ヲ入ルヘカラス

但別ニ傳染病室ノ設アルモノハ此限ニアラス

第四十一條 避病院ニ用フル看護人ノ員數ハ重症ノ患者二人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人ニ一人ヲ附シ其快復ニ趣ク者ニハ六人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ晝夜交代セシムヘシ
但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ著セシメ且ツ成タケ其人ヲ交換セシメサルヲ良トス

第四十二條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコヲ望ムルハ之ヲ許スヘシ

但其看護人ハ多人數ナラサルヲ要シ且ツ屢々更替スルヲ許サルヘシ

第四十三條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者ハ其見舞ヲ許スヘシト雖モ室内ニ於テ飲食ヲ嚴禁シ且ツ吐瀉物ニ接觸セサル様切ニ注意スヘシ

第四十四條 避病院ニ在ル患者ノ病況危篤ニ至ルキハ速ニ其家ニ通知シ若シ死亡スルキハ入棺セサル前ニ其死體ヲ家族ニ示スヘシ

第四十五條 流行ノ勢猛劇ニ及ヒ其地ノ群集事業ヲ差止ムルキハ先ツ祭禮、劇場、寄席等ヲ差止メ止ムヲ得サル場合ニ至ラサレハ學校、製造所等ヲ差止ムベカラズ又社寺參拜等ノ爲メ多人數旅行スルコトヲ差止ムルコトアルヘシ

第四項 消毒法

第四十六條 虎列刺ノ病毒ハ其吐瀉物ニ舍レリ故ニ吐瀉物及ヒ之ニ

汚染スルモノハ嚴ニ消毒法ヲ行フヘシ就中之ヲ燒滅スルヲ以テ最良法トス患者及ヒ其死體ハ直チニ病毒ヲ傳フル者ニ非スト雖モ吐瀉物ニ汚染スルヲ以テ亦病毒汚染物ト同視スヘシ

第四十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第四十八條 患者治療ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ著スヘシ吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルキモ亦此法ニ從フヘシ

第四十九條 看護人及ヒ患者死體運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シタル者ノ他人ト交通スルキニハ必ス沐浴更衣スヘシ

第五十條 病家ニ於テ止ムヲ得サル事故アリテ看護人其他患者ニ親接セル者ノ他出スルキハ必ス其身體ヲ洗淨シテ更衣スヘシ

第五十一條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ消毒法ヲ行フヲ要セサレヒ其家ヲ出ルニ臨テ盥漱スルヲ良トス

但若シ誤テ吐瀉物ノ爲メニ其衣服等ヲ汚シタルキハ稀薄石炭酸水^(第二)ヲ噴注シ或ハ沸湯ヲ以テ之ヲ洗ヒ然ル後第六十二條六十三條ニ依リ消毒法ヲ行フヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第五十二條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水^(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成タケ速ニ棺内ニ歛ムヘシ若シ濃厚石炭酸

水^(第一)ヲ用テ灌腸シ然ル後綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヲ得ハ最良トス

第五十三條 西洋形船舶航海中ニ死者アルキハ速ニ濃厚石炭酸水^{(第}

一ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ成タケ前條ノ灌腸ヲ行ヒ假ニ棺内ニ歛メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水^(第一)ヲ灌注スヘシ

但陸地ニ著スル上ハ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第五十四條 死體ハ醫師確認ノ後速ニ火葬セシムヘシ火葬場ナキ地方ハ人家ニ離レタル所ニシテ地質鬆疎ナラサルノ地ヲ擇ヒ簡易ノ火葬場ヲ設ケテ之ヲ燒クヘシ

第五十五條 吐瀉物ハ之ヲ便器漱盤等ニ承ケ之ト同量ノ濃厚石炭酸

水(第一)石炭酸若シ缺乏ノ時ニ際シテハ硫酸鐵合劑硫酸鐵ヲ灌
合劑亞硫酸溶液生石灰等ヲ撰用スヘシ以下之ニ倣ヘ
クヘシ其屋外ニ持出ス手續ハ第二十二條ニ依ルヘシ

第五十六條 避病院及ヒ各病家ヨリ運搬シタル吐瀉物汚穢物ヲ燒却
スルニハ其地方ニテ定メ置キタル地質鬆疎ナラサル所ニ適宜ノ穴
ヲ掘リ厚ク灰或ハ石灰ヲ穴底ニ敷キ乾キタル藁、鈍屑、落葉、枯草ノ
類ニ石炭油ヲ濺キテ其上ニ置キ之ニ吐瀉物ヲ投シ再ヒ同前ノ燃料
ヲ覆ヒテ火ヲ點スヘシ火勢減スルハ更ニ油ヲ注キテ屢々攪挑シ
全ク燒盡スルヲ期スヘシ且ツ其汚汁ノ地中ニ滲透セサル様注意ス
ルヲ要ス

但燃料及ヒ裝置等ハ其地ノ便宜ニ隨フヘシ

第五十七條 患者ノ入りタル廁圍ノ糞汁ハ法ノ如ク燒却スヘキモ若

シ大量ニシテ燒却シ難キモノハ亞硫酸溶液(第十)糞汁(第三)ノ石炭酸末(第四)

糞汁(第一)ノ若シ其缺乏ニ際シテハ生石灰(第三)糞汁(第一)ヲ投シテ汲取リ一定ノ

所ニ埋却シ其廁圍ニハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注入スヘシ

第五十八條 吐瀉物ノ水分多クシテ燒却シ得サルハ之ヲ埋却スルニ
ハ多量ノ濃厚石炭酸水(第二)若クハ亞硫酸溶液(第十)ヲ灌キ一定ノ場
所ニ於テ深ク埋却スヘシ

但吐瀉物ノ埋却場ハ豫メ井泉河流及ヒ人家道路等ニ接近セサル
地ヲ撰定スヘシ

第五十九條 吐瀉物汚穢物ヲ運搬スルニハ其地方ニ於テ豫メ取扱人
夫ノ手續ヲ定メ流行ノ間ハ毎日二三回病家ノ吐瀉物汚穢物ヲ收集
メ燒却若クハ埋却セシムヘシ尤モ其運器ハ極テ注意シ臭氣ノ洩レ

サル様只臭氣ヲ恐ル、ニアラス其毒蒸發相当ノ器ヲ用ヒ且ツ其汚汁多量ニシテ蕩溢ノ恐アルハ鋸屑、落葉、枯草等ヲ入レテ之ヲ防クヘシ

但運器ノ木製ナルモノハ流行終熄ノ後盡ク焼却シ其金屬製及ヒ陶製ノモノハ稀薄石炭酸水(第二)若クハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ洗淨スヘシ

第六十條 食料ニ供スヘキ物品ノ現ニ病毒ニ汚染シタルモノハ勿論病毒侵染ノ嫌ヒアルモノハ都テ之ヲ焼却スヘシ

但現ニ病毒ニ汚染セサルモ其汚染ノ疑ヒアルモノハ卅リシル酸溶液(三百倍ノ水ニ溶解セルモノ)ヲ以テ之ヲ洗淨スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第六十一條 衣服、臥具、蚊帳、疊、蓆等ノ甚シク吐瀉物ニ汚染シタルモノハ之ヲ焼却スヘシ

但船中積荷ノ吐瀉物ニ汚レタルモノモ亦之ニ倣フヘシ

第六十二條 衣服、臥具、蚊帳等吐瀉物ニ汚穢スル少ナクシテ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置ク一ニ十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等ノ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ

第六十三條 衣服、臥具、蚊帳等ノ少シク吐瀉物ニ汚染シ洗濯ニ堪ヘサルモノハ其品種ニヨリテ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第六十四條 死體ニ著セシ衣服ハ其消毒法ヲ行フコト第六十一條第十二條及ヒ第六十三條ニ同シ

第六十五條 避病院ニ用ヒタル蚊帳ハ其病室ニ在ルコト久キヲ以テ吐瀉物ニ汚染セサルモノト雖モ都テ之ヲ煮沸シ或ハ熱氣消毒法ヲ施スヘシ

第六十六條 吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人、等ハ患者及ヒ汚穢物ニ親接スルコト久ク若クハ屢次ナルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施スコト第六十二條第六十三條ニ同シ

但本文ニ掲クル所ノ者日々衣服ヲ更換セハ沸湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スルヲ可トス

第六十七條 看護人及ヒ患者死體運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シ

タル者ノ衣服手道具ハ直チニ病毒ニ汚染セサルモ稍々病毒侵染ノ疑ヒアルヲ以テ第六十三條ニ依リ消毒法ヲ行フヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第六十八條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ懸ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ吐瀉物ニ汚染ノ嫌ヒアル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但金銀器書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ初メニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸

氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用スヘシ

第六十九條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等客室ニ至テハ衆多ノ乗客皆積荷ノ間ニ枕籍シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルハ滿室ノ乗客積荷手荷物等モ皆病毒ニ汚染シタル者ト看做シ乗客手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品物ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薰スルノ後ニアラサレハ陸揚スルヲ許サス

第七十條 日本形小船ハ前條ノ方法ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ遍ク船身ヲ洗淨スヘシ

但海水モ亦消毒ノ効アルモノトス

第七十一條 避病院其他便宜ニヨリ他ノ家屋ヲ假用セシモノハ其病室ニ供セシ部分并ニ厠房ニ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ後稀薄石炭酸水(第三)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ石鹼水ヲ用ヒテ洗淨スヘシ尤モ亞硫酸薰蒸法ノ充分ナルハ石炭酸水ヲ用フルヲ必要トセス

第七十二條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第七十三條 臨時假設ノ避病院ニシテ其保存スヘカラサルモノハ流行終ル後之ヲ取毀ツヘシ尤モ其前先ツ汚穢シタル板敷、板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第七十四條 吐瀉物ヲ承ケタル漱盤便器等ハ之ヲ用フル毎ニ稀薄石炭酸水^(第二)或ハ亞硫酸溶液^(第十)ヲ以テ洗淨スヘシ其吐瀉物ニ汚染シタル紙屑手拭其他之ニ類スルモノハ悉皆收集メ第二十二條ニ載セタル壺或ハ桶ニ投シ濃厚石炭酸水^(第一)或ハ亞硫酸溶液^(第十)ヲ注キ吐瀉物ト共ニ之ヲ運搬セシムベシ

第七十五條 患者必要ノ手道具ヲ携ヘ避病院ニ入ル者ハ出院ノ時必ス亞硫酸瓦斯^(第九)薰蒸法ヲ行ヒ之ヲ交付スヘシ

第七十六條 患者及ヒ死體若クハ病毒ニ觸レタル物品ヲ運ヒタル舁舟車駕及ヒ運搬器等ハ稀薄石炭酸水^(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其舁舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第七十七條 病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水^(第二)或ハ亞硫

酸溶液^(第十)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨シ乾カスヘシ其

洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ^{濕潤}

フ^{フヘキモノノハ之}亞硫酸瓦斯^(第九)或ハ石炭酸蒸氣^(第三)ヲ以テ一時間

薰蒸スヘシ

第七十八條 書籍新聞紙ノ類病室ニアリタルモノハ之ヲ繙展シ石炭酸蒸氣^(第三)若クハ亞硫酸瓦斯^(第九)ヲ薰蒸スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第七十九條 醫術器械及ヒ木製金屬製陶製漆製等ノ諸器ハ總テ稀薄石炭酸水^(第二)ヲ以テ洗フヘシ

第六 廁圍溝渠等消毒法

第八十條 患者ノ入りタル廁圍及ヒ嘔吐シタル地ニハ充分亞硫酸溶

液^(第十)或ハ硫酸鐵合劑^(第五)ヲ注キ其廁圍ノ糞汁ハ速ニ悉皆之ヲ汲
取リ相當ノ消毒ヲ行ヒ終ルノ間ハ他人ノ入ルヲ禁シ其嘔吐シタル
地ハ速ニ之ヲ掃除シ其土ヲ更換スヘシ且ツ其糞屎及ヒ嘔吐ノ穢土
ハ人家遠隔ノ地ニ於テ燒却若クハ埋却スヘシ

第八十一條 糞壺及ヒ桶ノ破壞シテ病毒滲漏ノ疑ヒアルモノハ速ニ
之ヲ掘除ケ其周圍并ニ底面ノ土モ亦深ク掘取り濃厚石炭酸水^(第二)
或ハ亞硫酸溶液^(第十)ヲ十分ニ灌注シテ人家遠隔ノ地ニ埋却シ其跡
ニモ同様ノ消毒藥ヲ注キ更ニ新土ヲ填ムヘシ

但其消毒藥ノ量ハ其壺中糞汁ノ多少ニ因リ斟酌スヘシ大抵糞汁
五分ノ一乃至三分ノ一タルヘシ嘔吐物モ亦之ニ準ス

第八十二條 若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルコトアルハ十

分ニ亞硫酸溶液^(第十)或ハ硫酸硫酸鐵合劑^(第六)ヲ注キ其淤泥ノ撈ヘ
得ヘキモノハ之ヲ撈ヘテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ或ハ
多量ノ水ヲ灌キテ疏通セシムヘシ

但本條ノ如キ場處ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルハ消毒法モ其功
ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシムヘシ故ニ預メ戒諭シテ誤テ之ニ
投棄シ或ハ陰ニ投棄スル等ノ事ナカラシムルヲ要ス

腸室扶私

腸室扶私

英名 泰
表土

ハ從來神經熱、稽留熱、腸熱、傷寒、温疫等ト稱スルモノ

多ク之ニ屬ス而シテ此病ハ時ヲ撰ハス不斷散在性トナリ或ハ地方性トナリ或ハ流行性トナリテ發スト雖モ夏月早魃後秋涼ノ候ニ於テ最も多ク流行スルモノナリ

此病ノ流行ハ空氣ノ不潔、飲料水ノ汚濁、食物ノ不良等之カ因トナルモノニシテ其病毒ハ特ニ患者ノ糞尿ニ由リテ傳播スル者ナリ然レモ其毒發疹室扶私、天然痘等ノ如ク揮發性ノモノニ非サルヲ以テ豫防ノ方法モ亦其趣ヲ異ニシ專ラ其糞尿ニ注意スルヲ以テ緊要ノ目的ト爲スベシ

第一項 清潔法

第一條 腸室扶私ノ病毒ハ汚穢ノ地ニ萌動シテ飲料水ニ混シ其毒ヲ傳播セシムルノ例少カラス蓋シ是等ノ害ハ清潔法ヲ怠リ或ハ排泄物ヲ漫リニ放棄シ或ハ糞壺若クハ桶ニ破隙アル等ノ疎漏ヨリ生スルモノニシテ廁圍ト飲料水トノ注意ハ最モ肝要ナリ故ニ廁圍、芥溜、溝渠、下水等ノ掃除ヲ忽ニスヘカラス

但一處ノ水ヲ飲ム者一時ニ此病ニ罹ルト多人數ナルキハ直チニ其水ヲ試験シ不良ナレハ其飲用ヲ禁スヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ不潔ノ飲料水若クハ食物等ヨリ來ルモノナルカ故ニ消化シ易キ物ヲ食シ清淨ナル水ヲ飲ムハシ若シ善良ノ水ヲ得難キキハ必ス之ヲ濾過煮沸シテ用フヘシ其他冒寒、疲勞等ヲ戒ムヘシ

第三項 隔離法

第三條 醫師ノ腸室扶私ト診斷シタルキハ直チニ其家ノ門戶ニ病名票ヲ貼附スベシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 患者ハ成タケ其室ヲ異ニシ他人ト交通ヲ絶チ看護人ハ年齢四十歳以上ノ者若クハ一回此病ニ罹リシ者ヲ撰フヘシ少壯ノ者ヲ用フヘカラス

但航海船中ニ於テ發病者アルキモ本條ニ從ヒ處置スヘシ

第五條 一家ニ數人此病ニ罹ル者アルキハ相當ノ看護人ヲ留メ其他ノモノハ他家ニ避退セシムベシ

第六條 流行盛ナルニ際シ既ニ避病院ヲ設クルニ至ラハ狹隘不潔ノ地ニ雜居シ隔離行届キ難キモノハ入院セシムヘシ

但避病院ノ位置廣狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スベシ

第四項 消毒法

第七條 腸室扶私患者ノ瀉下物及ヒ之ニ汚染シタル衣服、器具等并ニ其病室、廁圍、便器等ハ盡ク病毒傳播ノ恐アルヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ消毒スベシ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第八條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又久シク此患者ニ親接セル看護人ノ他人ト交通スルキハ沐浴換衣スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第九條 死體ハ速ニ棺内ニ斂メシムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸セル綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヲ得ハ最良トス

第十條 糞尿ハ之ヲ便器ニ承ケ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ速ニ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ之ヲ埋却スヘシ

但埋却ノ地ハ井泉河流ノ近傍ヲ避クヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第十一條 衣服、臥具ノ糞尿ニ汚染シタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗淨シ或ハ之ヲ煮沸シテ後石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第十二條 患者及ヒ死體ヲ置キタル家屋船舶及ヒ避病院ノ病室屍室

ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ或ハ石炭酸水(第二)ヲ以テ拭淨スヘシ
但室内ハ常ニ注意シテ空氣ヲ流通スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第十三條 什具運搬器ハ直チニ糞尿ニ汚穢スルニ非サレハ消毒ヲ要セサレ其汚穢セルモノハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ洗滌スヘシ或ハ其品種ニヨリ熱湯ヲ注キテ後石鹼水ヲ以テ洗フヘシ
但木製ノ便器ハ其用ヲ終ルノ後之ヲ焼却スヘシ

第六 廁圍溝渠等消毒法

第十四條 若シ誤テ患者ノ糞尿ヲ廁圍溝渠ニ混入セシキハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キテ之ヲ汲取リ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ溝渠ハコロール石灰ヲ撒布シ水ヲ以テ疏通セシムベシ

赤痢

赤痢ハ一種ノ傳染病ニシテ其病毒地中ニ萌動シ人體ヲ侵スキハ必ス大腸ニ着キテ下利ヲ發スルモノナリ然シテ此患者ノ瀉下スル所ノ糞屎ハ其病毒ヲ含有シテ水中地中或ハ氣中ニ散漫シ因テ廣ク他人ニ侵染スルニ至ルモノトス

此病毒ノ發生ヲ助クルハ温熱ト濕濡トニ因ルモノナレハ熱帶地方ニ於テハ殆ント周歲絶ルコナク且ツ多クハ惡性ナリ又暖帶地方ニ於テハ季夏初秋ノ候ニ行ハル、ヲ以テ常トス又土地ノ景況ニ從テ一地方ニ限り流行スルコアリ或ハ惡性ニシテ廣ク流行スルコアリ此ノ如キ時ニ臨テハ務テ豫防法ニ注意シ其宜キヲ得ハ良性ノモノハ之ヲ撲滅スヘク惡性ノモノハ之ヲシテ良性ニ至ラシムルヲ得ヘシ故ニ流行ニ

際シテ豫防ノ法ヲ忽ニスヘカラス

第一項 清潔法

第一條 此病毒ハ汚濕ノ土地ニ萌動シテ氣中或ハ水中ニ混シ終ニ人體ヲ侵襲スルモノナルカ故ニ厠圍、溝渠、芥溜、下水及ヒ魚市、屠場等ノ不潔ナル場所ハ勿論殊ニ監獄、製造所等ハ最モ掃除ヲ嚴ニスヘシ但一處ノ水ヲ飲ム者一時ニ此病ニ罹ルト多人數ナルキハ直チニ其水ヲ試験シ不良ナレハ其飲用ヲ禁スヘシ且ツ清潔法ノ細目ハ能ク虎列刺ノ部ヲ參考シテ之ヲ斟酌スヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ老少ノ別ナク皆之ニ感スルノ素因アルカ如シト雖モ就中一回之ヲ患ヘシ者及ヒ不潔ノ地處ニ住居スル者不良ノ水ヲ飲

用スル者及ヒ露臥、夜行、過度ノ勞力等都テ不攝生ノ者ハ之ニ感シ易シトス又流行ノ際ニ當テハ下利秘結モ亦此病ノ誘因トナル故ニ宜ク之ニ注意シテ攝生ノ法ヲ守ルヘシ殊ニ此病ニ罹リシ者快復ニ向ハントスルキハ更ニ飲食ノ攝生ヲ嚴ニスヘシ些少ノ不消化物ヲ食フモ亦此病ノ再發ヲ促スノ恐アレハナリ

第三項 隔離法

第三條 此病毒ハ專ラ其瀉下物ニ在ルヲ以テ之ニ汚染セル衣服、便器、醫術器械等ハ勿論其他ノモノモ亦皆傳播ノ媒介トナル故ニ患者ヲ隔離スルヲ以テ豫防ノ第一要法トス其惡性ノモノハ最モ此注意ヲ忽ニスヘカラス

第四條 醫師ノ赤痢ト診斷シタル時ハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ

貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第五條 患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成タケ之ニ接近スヘカラス又老幼等ハ速ニ他家ニ避退セシムヘシ

第六條 若シ一家ニ數人此病ニ罹ル者アルキハ看護人ヲ留メ其他ノモノハ他家ニ避退セシムベシ

第七條 患者ハ必ス他人ト厠圍、便器等ヲ共用セシムヘカラス其瀉下スル所ノ糞屎ハ成タケ之ヲ便器ニ承ケ速ニ消毒法ヲ行ヒ之ヲ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ焼却スヘシ

但便器ハ成タケ金屬製或ハ陶製等ニシテ蓋アルモノヲ良トス

第八條 患者治癒若クハ死亡ノ後ト雖モ病室ニ消毒法ヲ行フニアラサレハ其中ニ起臥スヘカラス

第九條 航海船中ニ患者アルキハ看護人ヲ定メ便器ヲ以テ其瀉下物ヲ承ケ毎回必ス海中ニ投棄スヘシ

但港灣及ヒ河湖等ニ於テハ瀉下物ヲ投棄スヘカラス最寄陸地ニ於テ之ヲ焼却スヘシ

第十條 避病院ノ位置廣狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スベシ

第十一條 狹隘不潔ノ住居若クハ製造所、會社、學校、旅店等ニ於テ發病スル者ハ成タケ避病院ニ送致スヘシ

第十二條 避病院看護人ノ分配、來訪人ノ處置等ハ虎列刺ノ部第四十

一條ヨリ第四十四條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スヘシ

第十三條 普通病院アル地方ニ於テハ院内ヲ區隔シ避病室トナシ患者ヲ入ルヘシ又人家稀疎ノ村落ニ於テハ相當ノ空屋ヲ用フルモ可ナリ

第四項 消毒法

第十四條 患者ノ瀉下物及ヒ之ニ汚染セル衣服、臥具等并ニ病室、廁圍、便器等ハ盡ク病毒傳播ノ恐アルヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ消毒スベシ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第十五條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施

セシ衣服ヲ着スヘシ瀉下物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルキモ亦此法ニ從フヘシ

第十六條 看護人及ヒ患者死體運搬人ノ他人ト交通スルキニハ必ス沐浴更衣スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第十七條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水^(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成タケ速ニ棺内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸水^(第一)ヲ用テ灌腸シ然ル後綿ヲ以テ肛門ヲ塞クコトヲ得ハ最良トス
但此患者ノ死體ハ最モ腐敗シ易キヲ以テ速ニ棺内ニ斂メ且ツ成タケ速ニ之ヲ火葬若クハ埋葬セシムヘシ

第十八條 便器ニ承ケタル瀉下物ハ濃厚石炭酸水^(第一)或ハ硫酸鐵合

劑^(第五) 硫酸硫酸鐵合劑^(第六) 亞硫酸溶液^(第十) 等ヲ混和シ屋外ニ持出シ壺或ハ桶ニ入レテ密蓋シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ燒却スヘシ其燒却法ハ虎列刺ノ部第五十六條ヲ參照スヘシ

第十九條 甚シク瀉下物ニ汚染シタル紙及ヒ綿布等ハ悉皆取集メ之ヲ燒却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第二十條 衣服 臥具、蚊帳、疊、蓆等ノ甚シク瀉下物ニ汚染シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其汚穢スル少ナクシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水^(第二)ヲ灌キ浸シ置クヲ二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ若シ石炭酸等ノ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ

シ

第二十一條 其少ク瀉下物ニ汚染シ洗濯スヘカラサルモノハ其品種ニヨリ亞硫酸瓦斯^(第九) 若クハ石炭酸蒸氣^(第二)ヲ以テ薰蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第二十二條 死體ニ着セシ衣服ノ消毒法ハ前二條ニヨリ之ヲ施スヘシ

第二十三條 瀉下物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ハ患者及ヒ汚穢物ニ久シク觸接セルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施ス
「第二十條第二十一條ニ依ルヘシ

但日々衣服ヲ更換スル者ハ沸湯ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スルヲ以テ足レリトス

第二十四條 看護人及ヒ患者死體運搬人ノ衣服、手道具等直チニ病毒ニ汚染セサルモ稍々浸染ノ疑アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薰蒸シ日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第二十五條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附着ノ恐アル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ
但亞硫酸ノ爲メ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣(第

三或ハ熱氣消毒法等ヲ撰用スヘシ輕症痢病ノ如キハ必スシモ本條ノ處置ヲ要セス醋水若クハヨロ―ル水ニテ室内ヲ拭淨スルヲ以テ足レリトス

第二十六條 患者アリタル船室ノ消毒法モ亦前條ニ同シ

第二十七條 普通病院ニシテ區隔セシ病室及ヒ一時假用セシ家屋等ノ消毒法モ亦前條ニ同シ

但病室ハ數多ノ患者交々此内ニ入ルヲ以テ惡性ノ痢病ナラザルモ尙ホ前條ノ消毒法ヲ用フヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第二十八條 便器ハ之ヲ用フル毎ニ稀薄石炭酸水(第二)亞硫酸溶液(第十)
乙)ヲ以テ洗滌スヘシ

第二十九條 患者及ヒ死體若クハ瀉下物ニ汚染シタル物品ヲ運ヒタル諸器ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗滌スヘシ

第三十條 病室内ニ用ヒタル什具及ヒ醫用器械等ハ稀薄石炭酸水(第一)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ然ル後沸湯ニテ洗淨スヘシ

第六 廁圍溝渠等消毒法

第三十一條 患者ノ入りタル廁圍ハ他人ノ入ルヲ禁シ亞硫酸溶液(第十)或ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キ其瀉下物ハ速ニ之ヲ汲取リ人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ而シテ其糞壺ニハ復々同様ノ消毒法ヲ行フヘシ
第三十二條 糞壺及ヒ桶ノ破壊シテ病毒滲漏ノ疑アルモノハ之ヲ掘除ケ其周圍ノ土ヲ掘取り濃厚石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ

充分ニ灌注シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ

但消毒藥ノ量ハ其壺中糞量五分一乃至三分ノ一タルヘシ

第三十三條 若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルコトアルハ充分ニ亞硫酸溶液(第十)或ハ硫酸硫酸鐵合劑(第六)ヲ注キ其淤泥ノ撈ヘ得ヘキモノハ之ヲ撈ヘテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ或ハ多量ノ水ヲ灌キテ疏通セシムヘシ

但本條ノ如キ場處ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルハ消毒法モ其功ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシムヘシ故ニ豫メ戒諭シテ誤テ之ニ投棄シ或ハ陰ニ投棄スル等ノ事ナカラシムルヲ要ス

實布埤利亞

實布埤利亞ハ一種ノ猛劇ナル傳染病ニシテ其毒ハ患者ノ痰唾、涕汁等ニ舍トリ又呼出スル所ノ空氣モ其毒ヲ包含スルヲ以テ之ニ觸ル、時ハ老少ニ論ナク皆之ニ感スルモノナリ而シテ幼穉ノ者ハ之ニ懼ルコト最モ多クシテ且ツ危險ナリトス抑此病毒ハ其發生時季ヲ擇ハス又風土ニ關涉スルコトナク不斷散在スルコトアリ又一時ニ廣ク流行スルコトアリ此症ハ必ス咽喉ニ發スルモノニシテ之カ爲メニ其部ノ壞爛ヲ致シ甚シキモノハ須臾ニシテ斃ル故ニ從來喉風、喉痺、馬痺風、纏喉風、咽氣ノドケト唱フルモノ、中亦往々之レ有リ此病ハ患者ニ觸接セサルモ尙ホ感染ノ恐アルモノニシテ且ツ其毒久ク消滅セサルカ故ニ隔離消毒ノ方法ヲ忽ニスヘカラス

第一項 清潔法

第一條 此病流行ノ際ハ務テ一般清潔法ニ注意シ既ニ發病スルハ其室内ノ掃除ヲ怠ルヘカラズ家屋衣服等清潔ニシテ且ツ隔離法充分ナルハ廣ク流行ニ至ラスシテ消熄スルヲ得ヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ殊ニ咽喉ヲ侵スモノニシテ既ニ些少ノ咽吭炎アルモノハ自カラ侵襲ヲ被リ易シ故ニ專ラ口内、喉頭、氣管等ノ炎症ヲ誘發スベキ事件ヲ戒メ常ニ含漱スルヲ良トス
但其誘發スヘキ事件トハ頸圍ヲ温保セシモノ驟カニ寒冷ニ冒觸シ或ハ苛烈ノ飲食料ヲ用ヒ或ハ高談放歌シ或ハ幼稚ヲシテ頻ニ號泣セシメ及ヒ小學校ニ於テ妄ニ高聲ヲ發シ讀書唱歌セシムル

等ニシテ皆宜ク之ヲ戒シムベシ

第三項 隔離法

第三條 醫師ノ實布埵利亞ト診斷スルハ其家ノ門戶ニ病名票ヲ貼附スヘシ
但患者治癒或ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 此病ハ患者ニ接觸シ或ハ患者ノ痰唾ニ汚染セル物品若クハ室内ノ空氣ヨリ傳染スルヲ以テ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ看護人ノ外ハ漫ニ接近セシム可ラス殊ニ小兒ヲ遠サクベシ
但室内ノ空氣ハ常ニ清鮮ナラシムルヲ要ス

第五條 病兒ハ健兒ト共ニ遊戯セシムヘカラス又學校等ニ行カシム

ベカラス

第六條 病室内ニハ不用ノ衣服及ヒ器具ヲ置クヘカラス

第七條 患者ノ用フル所ノ飲食器及ヒ玩具等ハ他人ト共用スヘカラス

第八條 若シ其流行ノ勢盛ニシテ避病院ヲ要スルコアルキハ普通病院ヲ區隔シ或ハ相當ノ空屋ヲ以テ之ニ充ル等其便宜ニ任スヘシ

第九條 避病院ヲ設ルキハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者死亡シタルキ之ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ弔者ヲ入ルカ爲メ豫メ其餘地ヲ設クベシ

第十條 避病院ニ在ル患者ノ親戚又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サシコヲ望ムキハ之ヲ許スヘシ但屢々交替スルハ許スヘカラス

第四項 消毒法

第十一條 此病毒ハ患者ノ痰唾及ヒ呼氣或ハ涕汁等皆之カ傳送物タリ故ニ此等ノ排泄物ニ汚染シタル物ハ必ス消毒法ヲ行フベキモノトス

第十二條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第十三條 患者治癒ノ後他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルキモ亦此法ニ從フヘシ

第十四條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサ

ル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等其室ヲ出ルルハ必ス盥漱スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第十五條 死體ハ醫師確認ノ後速ニ棺内ニ斂メシムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第二)ニ浸シタル綿ヲ以テ口鼻ヲ栓塞スルヲ得ハ最良トス但死體ハ成タケ火葬スルヲ良トス

第十六條 痰唾及ヒ涕汁等ヲ拭ヒタル手巾及ヒ紙、綿布ノ類ハ悉皆取集メ之ヲ燒却スヘシ

但水分剰多ニシテ燒盡シ難キ所ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第十七條 衣服、臥具ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スルヲ良ト

ス其僅ニ穢レタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ浸シ置クヲ二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ且ツ洗滌シ日光ニ曝スヘシ或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薰蒸セシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第十八條 此病毒ハ極テ頑強ニシテ善ク粗糙ナル物ニ附着スルカ故ニ最モ注意シテ下條ノ消毒法ヲ充分ニ行フヘシ

第十九條 患者及ヒ死體ヲ置タル病室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ疊、蓆、壁障等ニハ更ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ或ハ之ヲ以テ拭淨シ其他棚架及ヒ板敷等ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室、屍室及ヒ普

通病院ヲ區隔セシ病室又ハ臨時假用セル家屋モ亦タ之ニ倣フヘシ

但亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣

(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ撰用スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第二十條 病室ニ用ヒタル什具飲食器及ヒ玩具等ノ甚シク汚穢シタ

ルモノハ之ヲ燒却スヘシ其燒却スヘカラサルモノハ稀薄石炭酸水

(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨ス

ヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列

シ濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スヲ良トス 亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ニテ一時

間薰蒸スヘシ然ラサレハ室外ヘ出スヘカラス

第二十一條 患者ノ玩弄セシ圖書書籍ノ類ハ之ヲ播展シ石炭酸蒸氣

(第二)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰蒸スヘシ

第二十二條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ

灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其舁舟ノ如キハ海

水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第二十三條 醫術器械等ノ木製及ヒ金屬製ニシテ病毒ニ接觸シタル

モノ例ヘハ壓舌筥ノ如キハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

發疹室扶私

發疹室扶私 英名タイ
扶私

ハ特異ノ揮發性傳染毒ニシテ飢饉熱、軍陣疫、囚獄熱等ノ稱アリ從來腐敗熱、神經熱、發斑熱、温疫、傷寒ト唱ヘシモノ、中ニモ亦此病アルコト多シ其病タルヤ地方ヲ撰ハス氣候ニ關セス流行スルト雖モ多クハ衆人群集大氣流通ノ不佳ナル所ニ萌動シ衣服身體ノ不潔或ハ飲食ノ不良不足及ヒ過度ノ勞力、露臥、夜行其他身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ誘因トシ傳染蔓延スルモノナリ其流行スルニ及テハ貴賤老幼ノ別ナク其誘因アルカ或ハ隔離法ノ行届サルヨリ倍々傳染ノ勢ヲ盛ニシ動モスレハ年ヲ亘リ消滅セサルコトアリ故ニ此病ノ豫防法ハ最モ忽ニスヘカラサルモノトス

第一項 清潔法

第一條 發疹室扶私ノ病毒ハ不潔狹隘、空氣ノ汚濁ヨリ生スルモノナレハ其發現スルニ當テ囚獄、兵營及ヒ製造所、貧院、棄兒院其他群集雜居稠密ノ場所ハ勿論一般ノ家屋タリモ掃除ニ怠ラス務テ清潔ニシテ且ツ空氣ヲ疏通セシムヘシ最モ其身體ニ切ナル清潔法ヲ至要トシ日々沐浴シ衣服ノ浣濯ヲ怠ルヘカラス殊ニ病毒ノ發生ヲ助クヘキ一切ノ汚穢物即チ廁圀、芥溜、溝渠等ノ掃除ニ注意ヲ加フヘシ

第二條 避病院病室ニ於テ用フル所ノ臥具ハ無色若クハ淡色ノモノヲ要スヘシ其汚染ノ見易キカ爲メナリ自宅療養ノ者モ亦同様ノ注意ヲ要スヘシ

第二項 攝生法

第三條 此病ニ感スルノ素因ハ各人多クハ之ヲ有スト雖モ就中飢饉

ノ窮民、軍陣ノ兵卒、監獄ノ囚徒等ノ如キハ其居處及ヒ攝生ノ不良ナルヨリ此病ニ罹ルモノ多シトス夫レ飢饉ノ時ニ當テハ攝生ノ事皆其宜キヲ得スト雖モ其最モ甚シキハ食物ノ不足ト不良トニアリ故ニ衛生官吏ハ務テ其食品中成タケ滋養分多キモノヲ撰ヒ有害ノ物ヲ指示シテ之ヲ避ケシムヘシ

第四條 兵卒ノ軍陣ニ在ルモ固ヨリ攝生ノ方ヲ講スルニ違ナカルヘシト雖モ若シ一人發病スルモ直チニ全軍ニ波及スルノ虞アルヲ以テ成ルタケ無用ノ露臥過勞ヲ慎ミ且ツ飲料ノ良否ニ注意ヲ加フベシ囚獄、懲役場ノ如キハ流行ノ際殊ニ空氣ノ流通及ヒ其食物ニ注意ヲ加ヘ工役等モ過度ナラシメサルヲ要ス一旦病毒ノ蔓延スルニ至テハ高貴豪富ノ人ト雖モ猶其傳染ヲ免ル、能ハス是各人其素

因アルヲ證スルニ足ル故ニ此時ニ當テハ務テ身體ノ溫度ヲ適宜ニ保持シ飲食ヲ攝シテ過度ノ勞力ヲ爲スヘカラス且ツ夜氣、風雨等ノ感冒及ヒ身體ヲ衰弱セシムルノ諸件ヲ戒ムヘシ

第三項 隔離法

第五條 醫師發疹室扶私ト診斷シタル時ハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第六條 發疹室扶私ハ其毒揮發性ニシテ患者ノ皮膚、蒸發氣、呼氣ヨリ發スルモノナレハ直チニ患者ニ接觸セサルモ尙ホ之ヲ感受スルコトアリ故ニ患者ノ身體ヲ以テ皆病毒ナリト看做スヘシ又患者數名ヲ

狹隘ノ一室ニ入ルルハ病毒稠厚トナリ感染ノ勢益々烈ク此室内ニ入ルモノ忽チ其病害ヲ受ルノ恐アリ故ニ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ且ツ相當ノ廣室ニ移サ、ルヘカラス

第七條 病室ハ適宜ニ窓戸ヲ開キ換氣法ニ注意シ常ニ其内ノ空氣ヲ清鮮ナラシメ看護人ノ外必ス接近セシムヘカラス

第八條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ止ムヲ得サル事故アルノ外他人ト交通ヲ絶チ又老幼等ハ成タケ速ニ他家へ避退セシムヘシ否ラサレハ啻ニ其害ヲ受ルノミナラス之カ媒介トナリ大ニ傳播スルノ恐アレハナリ

但家人ト雖モ要用アルノ外其室内ニ入ルヘカラス若シ外人ノ要用アリテ來ルルハ戶外ニ於テ之ヲ辨スヘシ且ツ看護人ハ成タケ

更換スヘカラス是レ其揮發毒ノ衣服等ニ附着シテ廣ク他人ニ傳染スレハナリ

第九條 病室内ニハ不用ノ器具ヲ置クヘカラス殊ニ毛布ノ類ハ其病毒ヲ包含シ易キカ故ニ必要ノ外決シテ之ヲ置クヘカラス

第十條 此病ハ死體ヨリモ尙ホ其病毒ヲ發出シ以テ感染セシムルノ例少ナカラス故ニ死體ニハ速ニ消毒法ヲ行フヘシ死體ニ沐浴セシメ或ハ屍傍ニ接近スル等ノ一ハ決シテ爲スヘカラス

第十一條 患者治癒死亡ノ後ハ病室ニ消毒法ヲ行ヒ數週間窓戸ヲ開放シ風氣ヲ流通スヘシ蓋シ消毒ノ後ト雖モ即チ室内ニ起臥スルハ傳染ノ恐ナキニアラサルガ故ナリ

第十二條 船舶中ニ此病ヲ發スル者アルハ速ニ其室ヲ異ニシ看護

人ノ外交通ヲ絶ツト尙ホ人家ニ於ルカ如クスヘシ

但此病ハ動モスレハ衆人群集セル船室ニ發シ又船中飲食ノ不良不足等其素因トナルカ故ニ若シ患者アラハ速ニ之ヲ隔離シ室内ノ清潔法ニ注意スヘシ

第十三條 製造所、會社、學校、旅店等其他衆人群集ノ處ニ於テ發病セシ者アラハ成タケ速ニ之ヲ避病院ニ送ルヲ良トス若シ避病院ナク他ニ相當ノ空屋アラハ直チニ此ニ送致スヘシ然レモ其發病セシ所ノ室廣濶ニシテ且ツ他人ト充分ニ隔離スルヲ得ハ必シモ他ニ送ルヲ要セサルヘシ

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス往來繁多ノ路傍等ニ置クヘカラス

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲クヘシ

第十五條 避病院ノ建築ハ簡易ヲ旨トシ善美ヲ要セス是レ流行終熄ノ後焼却スルヲ良トスレハナリ

第十六條 避病院ノ病室ハ最モ濶大ナルヲ要スル故ニ患者一人ニ二坪半ト見積リ其人數ノ概計ハ虎列刺第三十四條ニ載セタル割合ニ從ヒ之ヲ設クヘシ其他醫師詰所、事務所、看護人休息所並ニ簡易ノ蒸室等ヲ設クヘシ虎列刺第三十六條參照

第十七條 避病院ノ門側ニ輕易ナル風呂ヲ置キ看護人、見舞人等退出ノ時必ス之ニ浴セシムルヲ良トス又病室ハ空氣ヲ流通セシメンカ爲メ窓戸ヲ開キ冬時ハ暖爐ヲ置キ其溫度ヲ適宜ニシテ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但患者退院若クハ死亡スルノ後ハ毎回其病室内ニ消毒法ヲ行フヘシ

第十八條 避病院ニハ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルハ直チニ之ニ遷シ病室ニ留置クヘカラス

但其屍室ニハ親族ノ弔者ヲ入ルカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ其弔者ハ成タケ速ニ來ルヘキ手續ヲ爲スヲ要ス此病ハ死體モ亦發毒ヲ逞フスルモノナレハ必ス久ク留置クヘカラス

第十九條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ之ヲ假用シ或ハ苜蓿等ノ屋舎ヲ假設スルモ可ナリ

第二十條 尋常ノ病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設アリテ充分ニ隔離法消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的

アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ二人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人ニ一人ヲ附シ其快復ニ赴ク者ニハ六人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ着セシメ且ツ成タケ其人ヲ更換セシムヘカラス

第二十二條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコトヲ望ムルハ之ヲ許スヘシ但其看護人ハ多人數ナラサルヲ要シ且ツ屢々更替スルヲ許スヘカラス

第二十三條 避病院ニ携へ來リシ衣服、手道具等ハ別室ニ置クヲ良トス

ス

第二十四條 患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者來訪スルモ成タケ室内ニ入ルヲ許サ、ルヲ良トス

第二十五條 此病ハ揮發性ニシテ一時ニ衆人ヲ侵シ若シ一人發病スルモ其衣服等ニ附着セル病毒忽チ傳播シ大ニ流行ノ媒介トナルヲ以テ流行ノ際ニハ成タケ衆人群集スルノ事業ヲ差止メ且ツ社寺參拜等ノ爲メ多人數旅行スルヲ差止ルコトアルヘシ

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ患者及ヒ死者ノ身體ヨリ發シテ衣服、臥具、器具ハ勿論居室ノ疊、蓆、屏障等ニ至ルマテ盡ク附着シテ其病毒久ク潛匿スルモノナレハ病體及ヒ死體ニ近接セルモノハ都テ病毒ト同視シ

消毒法ヲ行フヲ要ス

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第二十八條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節等ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ患者死體運搬人並ニ避病院ノ醫師死體取扱人及ヒ船中ニテ患者ト同席セシ者等他人ト交通スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セシ醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者ハ成タケ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及ヒ手ヲ洗拭スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第三十條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ歛ムヘシ

但死體ハ成タケ之ヲ火葬スルヲ良トス

第三十一條 西洋形船舶航海中ニ死者アルキハ速ニ濃厚石炭酸水(第

一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ歛メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水

(第一)ヲ灌注スヘシ

但陸地ニ着スルキハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第三十二條 此病ハ必シモ排泄物ヨリ傳染セスト雖モ空氣ヲ汚スノ

恐アルヲ以テ成タケ速ニ之ヲ取除ケ病室内ニ留置ヘカラス

第三 衣服臥具等消毒法

第三十三條 患者ノ久ク着シタル衣服、臥具ノ污垢ニ染ミタル者、又ハ

死體ニ直接シタル臥具、瀧病院ニテ用ヒタル臥具、蚊帳等ハ成タケ燒

却スルヲ良トス其燒却ヲ憚ルヘキモノニシテ洗濯スヘキハ之ヲ桶

ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置ク二十四時間ニシテ更ニ

沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石

炭酸等若シ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上煮沸スヘシ

第三十四條 同前ノ品種ニシテ洗濯スヘカラサルモノハ亞硫酸瓦斯

(第九)石炭酸蒸氣(第二)ヲ以テ薰蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光

及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第三十五條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁

ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戶

ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戶ヲ開

キ病毒附着ノ恐アル柱、板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之

ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日

光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其

色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第

三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用スヘシ

第三十六條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナ

シト雖モ下等客室ニ至テハ衆多ノ乗客皆積荷ノ間ニ枕藉シ幾ント
彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルハ滿室ノ乗客、積荷、手
荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト看做シ乗客、手荷物ハ上陸ノ時充分
ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯
(第九)或ハ晶種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薰スルノ後ニ非ザレハ陸揚
スルヲ許サス

第三十七條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ
普ク船身ヲ洗フヘシ

第三十八條 尋常家屋ヲ避病院ニ假用セシモノハ其病室トナセシ部
分ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰セシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液
(第十)ヲ洒キ石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第三十九條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アル

モノトス

第四十條 避病院ハ流行ノ後成タケ燒却スルヲ良トス否ラサレハ先
ツ汚穢シタル板敷、板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸
溶液(第十)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝シ然ル後
之ヲ取毀ツヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第四十一條 病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞
硫酸溶液(第十)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗
フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ濕潤ニ堪
フヘキモノハ之ヲ濕亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間
スヲ良トス

薰蒸スヘシ

第四十二條 書籍新聞紙ノ類病室ニアリタルハ之ヲ繙展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第四十三條 醫術器械及ヒ職人手道具其他木製、金屬製、陶製、漆製ノ諸器類ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

痘瘡

痘瘡ノ病毒ハ揮發性及ヒ固性傳染毒ニシテ全ク患者ノ身體ヨリ發出シ又ハ死體及ヒ痘漿、痘痂ニ直接シテ感染スルノミナラス其患者ニ接觸セシ衣服、臥具其他一切ノ物品ヨリモ傳染シ又其病室内ノ空氣、塵埃モ之カ媒介トナリテ其病毒ヲ傳送スルモノトス

痘瘡ハ古來ヨリ全世界ニ發現シ殊ニ惡性流行スルハ其勢猖獗ニシテ無數ノ人衆ヲ害シ良醫モ亦手ヲ束テ其術ヲ施スヘカラサルアリ但人生一回此病ニ罹ルハ感受性ヲ脱盡シ得ルヲ以テ英國ノ醫博士ジエン子ル氏牛痘接種ノ法ヲ發明セシ以還其善感スル者ハ復タ天然痘ニ感スルナシ故ニ此法行ハレテヨリ大ニ患者ノ數ヲ減シ偶マ流行スルモ其病性劇惡ニ至ラス殆ント其性ヲ變スルニ至ルヲ証スルニ足ル

是故ニ種痘ヲ普及スルハ全ク此病ヲ防盡スル所以ニシテ即チ豫防ノ第一トス

第一項 清潔法

第一條 此病ハ各人感受性ヲ具フル故ニ一般清潔法ヲ要スルモ他病ニ於テ緊要トスルカ如クナラス但患者ノ居室ヲ清潔ニシ痘漿等ニ汚染セル衣服ヲ屢々更換シ周圍ノ塵埃ヲ掃除シ專ラ他人ニ傳染スルヲ防クヲ要スルニアルノミ

第二項 攝生法

第二條 前條ニ載スルガ如ク牛痘ヲ接種シテ其素因ヲ脱盡スルハ復タ天然痘ニ感スルコトナシ然レモ一回種ヲ以テ足レリトスヘキニ非ス再三接種シ其善感ノ確徴ヲ取ラサルヘカラス唯衣服、飲食等ノ

攝生ヲ以テ此病ノ侵襲ヲ豫防スヘキニアラス

第三項 隔離法

第三條 醫師痘瘡ト診斷シタルハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 痘瘡ノ毒ハ患者ノ身體又ハ其衣服、臥具等ヨリ傳染シ又患者ニ接近シタル者ノ衣服等ヨリモ傳染スルヲ以テ成タケ患者ニ接近シ又ハ患者ノ用ヒタル衣服器具等ニ觸ルヘカラス

第五條 自宅療養ノ患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成タケ接近スヘカラス已ムヲ得サル事故アルノ外ハ他人ト交通ヲ絶チ殊ニ未痘

者ヲ近クヘカラス

第六條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ其他要用アル者ノ外成タケ之ヲ室内ニ入シムヘカラス

但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ

第七條 病室内不用ノ器具ハ勿論殊ニ不用ノ毛布等ヲ置クヘカラス

第八條 患者死亡ノ後其屍傍ニ接近シ并ニ死體ニ沐浴セシムル等ハ爲サ、ルヲ良トス

第九條 縦令輕症ナル患者ト雖モ落痂後一週日ヲ經ルニアラサレハ學校其他衆人群集ノ場所ニ行カシムヘカラス

第十條 蚊蠅ハ好テ患者ノ皮膚ニ聚リ頗ル病毒傳播ノ媒介ヲナスモノナレハ病床ニハ常ニ蚊帳ヲ張り蚊蠅及ヒ其他ノ小蟲ヲモ防クヘ

シ

第十一條 病室ハ消毒ノ後ト雖モ數週間未痘者ヲ入ルヘカラス

但同家内ニ於テ若シ復タ此病ニ罹ル者アルトハ此病室ヲ用フルモ妨ケナシ

第十二條 西洋形船舶航海中若シ發病者アルトハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外他人ト交通ヲ絶ツコト猶ホ人家ニ於ケルカコトクスヘシ

第十三條 製造所、會社、學校、旅店等ニ在テ發病シ引取人ナキ者并ニ狹隘不潔ノ地ニ雜居スル者等ニシテ看護消毒法行届カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キ者ハ之ヲ避病院ニ送ルヘシ若シ避病院アラサルトハ適當ノ空屋ニ移シテ之ヲ隔離スヘシ

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル

地ヲ撰ヒ必ス往來繁多ノ路傍等ニ設クヘカラス
但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲クヘシ

第十五條 避病院ヲ新ニ構造スルハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要
セス其牀ヲ高クシ窓戸ヲ闊大ニシ且ツ板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便ニシ
其屋根ハ板葺、苫葺等一時ノ便ニ任シテ可ナリ且ツ其病室ハ闊大ナ
ルヲ要スルヲ以テ凡患者一人ニ二坪半ト見積リ之ヲ建設スヘシ

第十六條 避病院ノ病室ハ重症輕症ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二
坪半ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令輻湊スルトモ一坪若クハ一坪
半ニ一人ノ割合ヨリ狹クスヘカラス

但此他醫師詰所、事務所、看護人休息所等便宜ニ之ヲ設ケ且ツ簡易
ノ薰蒸室ヲ設クヘシ

第十七條 避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ看護人、見舞人等外
出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ

第十八條 避病院ハ窓戸ヲ闊大ニシ空氣ヲ流通セシメ冬時ハ暖爐ヲ
置キ室内ノ溫度ヲ適宜ニシ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但病室ハ患者治癒死亡ノ後毎回消毒法ヲ施スヘシ

第十九條 避病院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタル
尸ハ直チニ此ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ弔者ヲ入ル、カ爲メ其餘地ヲ設クヘシ且ツ其弔
者ハ成タケ速ニ來ルノ手續ヲナスヲ要ス

第二十條 尋常病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從
來傳染病室ノ設ケアリテ充分ニ隔離法消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的

アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必シモ避病院ヲ設ルヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ假ニ之ヲ用フヘシ

第二十二條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ一人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ三人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ且ツ其表記アル衣服ヲ著セシメ成タケ其人ヲ更換セシムヘカラス

第二十三條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲シテ望ム所ハ既痘者ニ限り之ヲ許スヘシ但屢々更替スルヲ許

スヘカラス

第二十四條 患者ノ親族等一時見舞ヲ爲サント請フ所ハ之ヲ許スト雖モ成タケ屢々スヘカラス其出ル時ニハ必ス充分ノ消毒法ヲ施スヘシ

第二十五條 流行ノ勢猛劇ナル所ハ祭禮、劇場等衆人群集ノ事業ヲ差止メ學校モ成タケ之ヲ閉ツルヲ良トス

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ膿漿、痲痘、呼氣、津唾及ヒ死體ヨリ傳染シ又患者ノ衣服、臥具、其他患者ニ接觸セシ器具及ヒ居室等ヨリモ傳染スルカ故ニ甚シク汚染セシモノハ成タケ燒却スヘシ

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第二十八條 患者治癒落痲ノ後一週日ヲ經テ初テ他人ト交通シ又ハ
避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣
服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ著スヘシ看護人及ヒ患者屍體運
搬人並ニ避病院ノ醫師死體取扱人等ノ他人ニ交接スルキモ亦此法
ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セ
サル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及
ヒ手ヲ洗フヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第三十條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ浸シタル單衣若クハ綿

布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ斂ムヘシ

第三十一條 死體ハ成タケ火葬セシムルヲ良トス埋葬シタルモノハ
其病毒數十年ヲ經ルモ消滅セサルモノトス

第三十二條 西洋形船舶航海中ニ死者アルキハ速ニ濃厚石炭酸水(第
一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ斂メ通常
屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水
(第二)ヲ灌注スヘシ

但陸地ニ着スルキハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分
スヘシ

第三十三條 落痲及ヒ病室ノ塵埃又ハ患者ニ觸レタル綿布紙等ノ斷
片ニ至ル迄時々收拾シテ之ヲ焼却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第三十四條 患者ノ久ク用ヒタル衣服、臥具及ヒ避病院ニ用ヒタル蚊帳ノ甚シク病毒ニ浸染シタル者并ニ避病院ノ臥具、疊、蓆等ハ之ヲ燒却スヘシ

第三十五條 患者ノ著シタル衣服、臥具及ヒ手巾、蚊帳等又ハ死體ニ著セシ衣服等ノ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二ヲ灌キ浸シ置ク)二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スル片ハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ其洗濯ニ堪ヘサルモノハ品種ニヨリ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第三十六條 避病院ノ醫師、看護人及ヒ死體運搬人等ノ衣服ニ施スヘキ消毒法ハ前條ニ同シ

第四 家屋船舶等消毒法

第三十七條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附着ノ恐アル柱、板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他ノ器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第

三或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用スヘシ

第三十八條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等客室ニ至テハ衆多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕籍シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルキハ滿室ノ乘客、積荷、手荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト看做シ乘客、手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣第三ヲ薰スルノ後ニ非レハ陸揚スルヲ許サス

第三十九條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗淨スヘシ

第四十條 避病院或ハ便宜ニヨリ他ノ空屋ヲ假用セシモノハ其病室

ニ供セシ部分ニ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰セシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

但消毒ノ後モ數週間其内ニ入ルヘカラス且ツ空氣ヲ流通セシムヘシ

第四十一條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第四十二條 臨時假設ノ避病院ニシテ其保存スヘカラサルモノハ流行熄ムノ後之ヲ取毀ツヘシ尤モ其前汚穢シタル板敷、板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第四十三條 避病院ニ携へ來リシ手道具、玩具等ハ治癒若クハ死亡ノ後亞硫酸瓦斯(第九)薰蒸法ヲ行ハサレハ之ヲ出スヘカラス

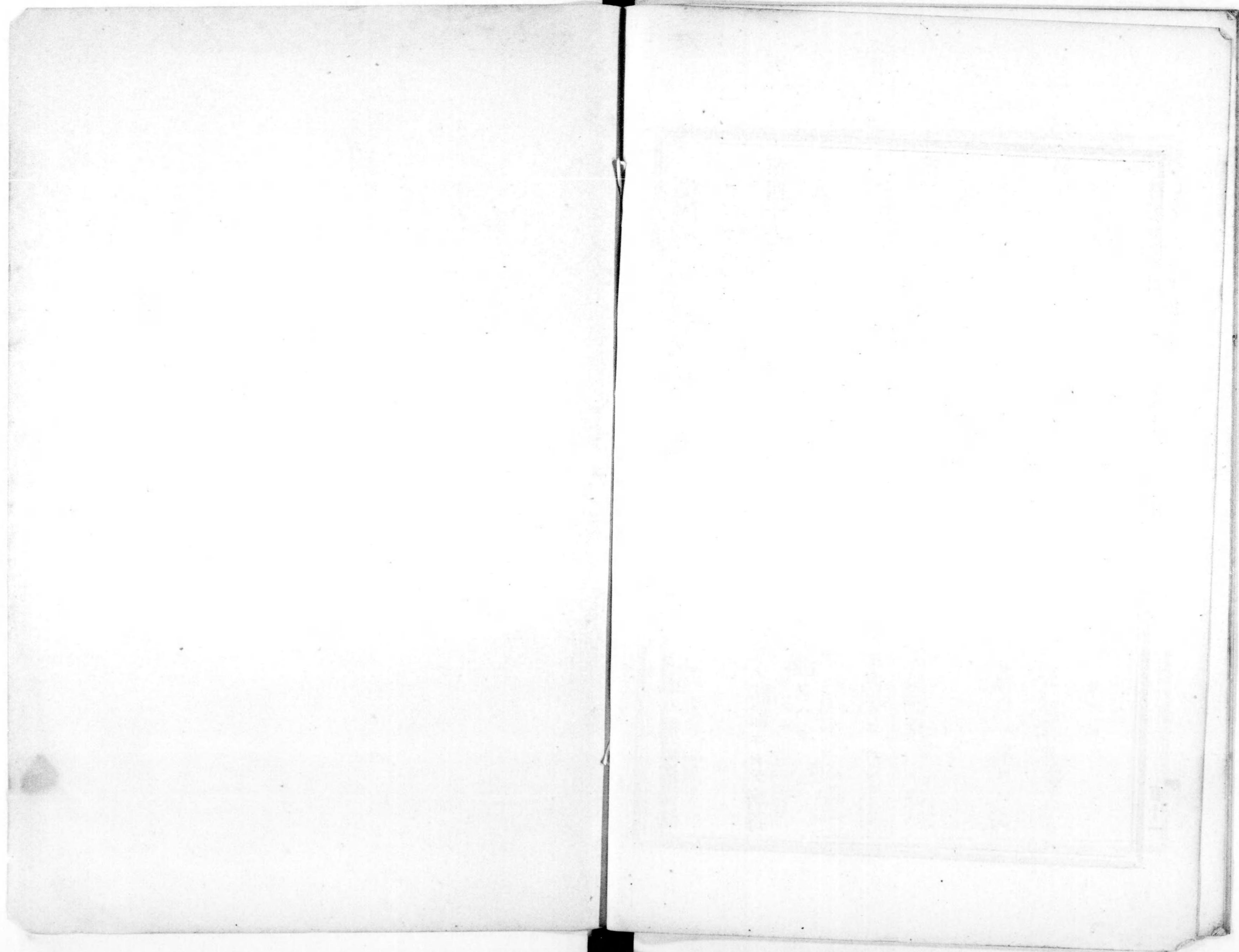
第四十四條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其解舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第四十五條 病室ニ用ヒタル什具、玩具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ濕潤ニキモノハ之ヲ濕スヲ良トス亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間之ヲ薰蒸スヘシ

第四十六條 患者ノ玩弄シタル圖書、書籍、新聞紙ノ類ハ之ヲ縮展シ石

炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰蒸スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第四十七條 醫術器械及ヒ木製、金屬製、陶製、漆製等ノ諸器ニシテ病毒ニ觸レタルモノハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ



終

